

有意義な夏休みに！！（そのためにも大切なことは）

ようやく子どもたちが待ち望んでいた夏休みです。しかし、8月8日から23日までの約2週間と半分以下の期間となってしまいました。短い期間ですが、中身の濃い休みにしてほしいなと願っているところです。

さて、宿題（課題）につきましては、各担任から学年便りを通して詳しくお知らせしてありますのでご確認くださいと思います。通常の夏休みであれば、ワークブックに加え、自由研究、読書感想文、工作、絵画等様々な課題で盛りだくさんだったのではないのでしょうか。今年度は、どの学年の課題も必要最小限なものにとどめるよう歩調を合わせました。ワークブックもできるだけ薄いものを選定しました。

もちろん、無為に過ごすことを望んでいるわけではありません。この措置については以下のねらいがあります。

子どもたちは3月から5月までの期間、緊急事態宣言を受け不要不急の外出は避け、家庭で静かに過ごすよう促されました。様々な体験や経験を通して大きく成長するこの時期、夏休みはそれを挽回する重要な役割があるのではと捉えております。新型コロナウイルスもまだまだ予断を許さない状況が続き、難しいところがございますが、お盆の行事等に合わせてご家族やご親戚との交流を深めたり、夏休みだからこそできるレクリエーションやスポーツに親しんだりするなどしてできるだけ遊ぶこと、それが願いです。子どもたちにとっては遊ぶ（体験する・経験する）ことも大切な学習の一つであると考えます。

そのためにも、8月7日に配付される生徒指導便り「いしがみのよいこ」をご覧ください、お子さんとともに注意事項等についてご確認をお願いします。事故や事件に遭わないように最大限注意する、このことが何よりの優先事項です。また、ご家庭での生活のきまりについて十分話し合ってください。ゲームやSNSなどで生活のリズムが乱れがちなお子さんも見られます。ゲーム等バーチャルな世界での体験は、子どもにとって大切な遊びの範疇にももちろん入らないこと、蛇足ながら申し添えます。



1学期の成績評定について

授業が再開されてしばらくの間、学習活動につきましても新型コロナウイルス感染防止のため様々な制限がありました。例えば、文部科学省から授業を行うにあたり、「接触」「密集」「近距離での活動」「向かい合っでの発声」について可能なものは避ける、一定の距離を保つ、同じ方向を向くなど、可能な範囲で工夫する旨の指針が示されました。

これを受け、子どもたち同士が活発な意見を交流したり対話的な学習をしたりする活動は可能な限り避け、教師からの一方通行的な授業とならざるを得ませんでした。また臨時休校になることを想定し、「読み・書き・算盤」を中心とした詰込み的な学習になったことも事実です。

教員はワークテストの点数だけで機械的に評定をすることはしません。日常の学習活動において、主体的に話し合い活動に参加しているだろうか、友だちの意見と照らし合わせてよりよい考えを導いているかどうかといった様々な観点で総合的に評価しています。そのようなことから、今学期は、各教科において責任をもって評定することは困難であると判断しました。学習の様子につきましては、所見欄で文章にてお知らせします。ご了解いただきたくよろしくお願いいたします。

